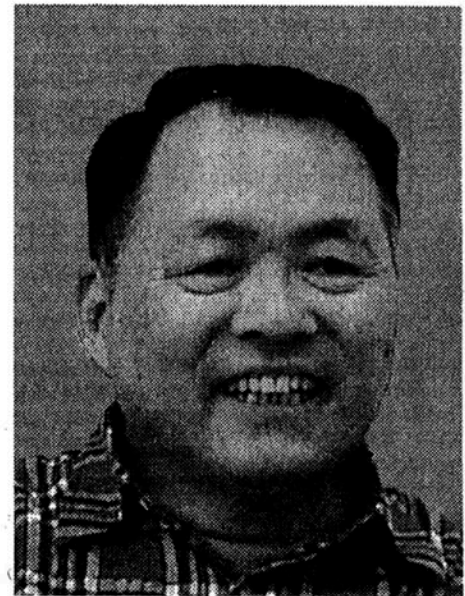


# インタビュー

近藤 健一氏

大正紡績営業部長

成長続けるアパレルメーカー、SPA（製造小売業）などの企画担当者、デザイナーなど、旬の素材を求め、企画の打ち合わせなどをおこなうため、絶えず訪れている大正紡績。彼らが目当てにしているのが近藤さん。



コットンで自然の膨らみがあり注目されています。多彩な素材を開発

現在、重点にしている素材は。

綿リッチの獣毛混、綿とアンゴラなど獣毛の組み合わせは他にあまりないと思います。それからシンバブエの綿、世界のハイブリッ

カボック、ヘンプ、ケナフ、バンブー、パイナップル、土佐の和紙、吉野の葛、沖繩のサトウキビによる繊維など。いい原料と混ぜる技術でいろいろ素材を開発しています。染色は植物染料、彩土（はに）染め、友禅染めなど自然染めが中心です。

## 世界にない物づくりを

原則は3つ

——大正紡績の生産ポリシーは。

——エンジニアの目で世界のヒット商品を見ると、原則は三つあると思います。まず素材。日本の紡績はプレ

三拍子揃え、世界的に競争力のある商品、世界にない物を作る。消費者が感激して、また欲しくなるもの作りが大事だと、常々言っています。

——ストーリー性とトシた。

——素材が決め手と

——大正紡の糸がほしいところが多いですが。うちはライオンズクラブと一緒。同じ業種には売りません。アパレルメーカー、SPA（製造小売業）

ンドしすぎているが、大正紡は単一混綿で、素材の良さを生かしています。次は軽い、ソフトといった機能。それにもう一つ、日本で欠けているストーリー性

例えば、イタリア・フィレンツェで夕暮れ、アルノ川を見ていると川面がキラキラ光る。これを表現できないか。色は修復の終わつた最後の晩餐（ばんさん）の絵からとる。それで手摘

商品は素材で決まります。だから、世界中、いい素材を求め、自分で買っていきます。先日もシンバブエのコットンを買ってきた。

——珍しい繊維も多く開発されています。

——珍しい繊維も多く開発されています。

です。

手摘みのオーガニック

の絵からとる。それで手摘

——珍しい繊維も多く開発されています。

——珍しい繊維も多く開発されています。